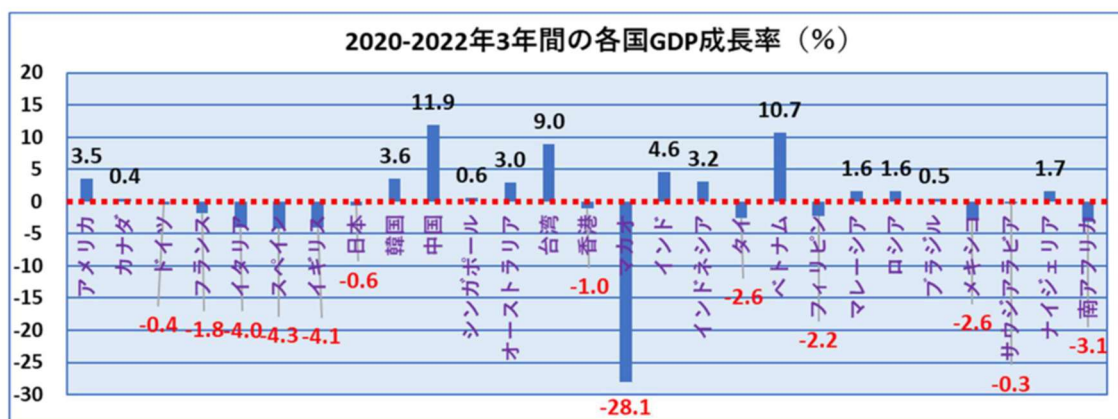


## IMF レポートの続き 1・・・こんなことまで書いてありました

- 月曜日 - 12月4日 2021

先週に続き IMF (国際通貨基金) の世界経済見通しの 2021 年春季レポートについてご紹介します。今日から 2 日間は、英文のレポートを直接引用します。まず、アジアを中心にもう少しいろいろな国を加えてこの 3 年間の推移の予測とそれから計算して出した 2022 年終了時点での、対 2019 年比での GDP (2019 年 = 100) のグラフです。表は縦長になりましたので PDF で添付しました。興味のある方は開けてみてください。2022 年の GDP のみをグラフ化したものを下に示します。

[IMF3 年間成長率推移](#) [ダウンロード](#)



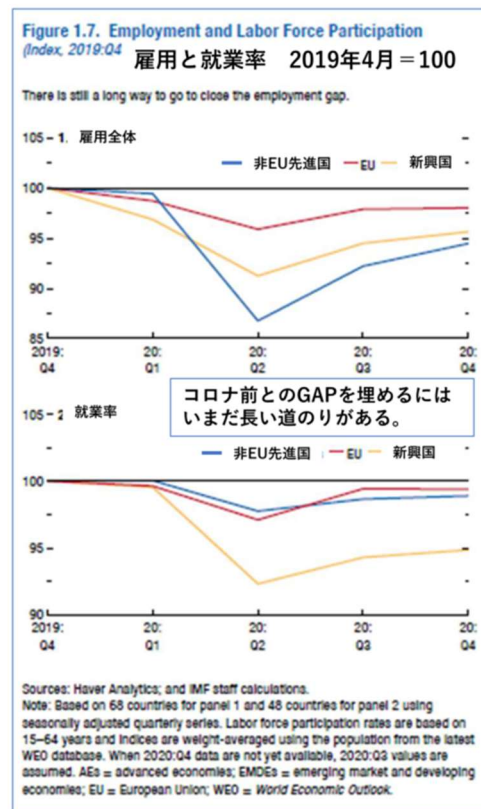
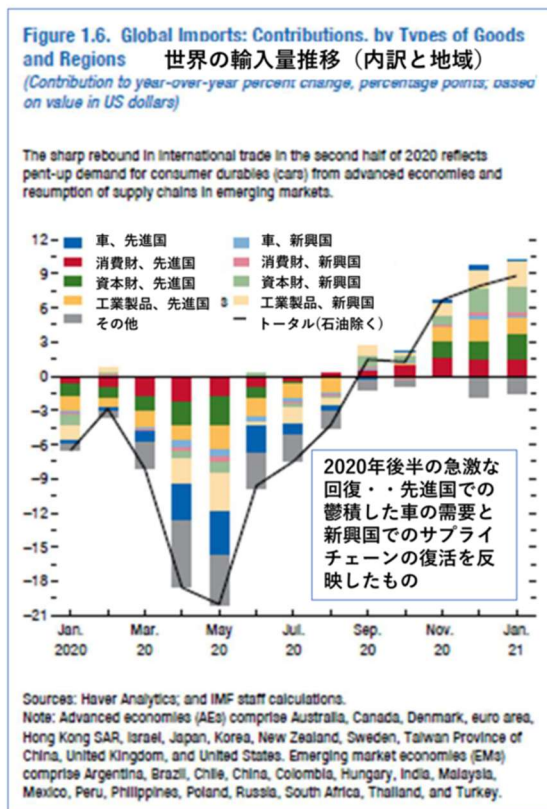
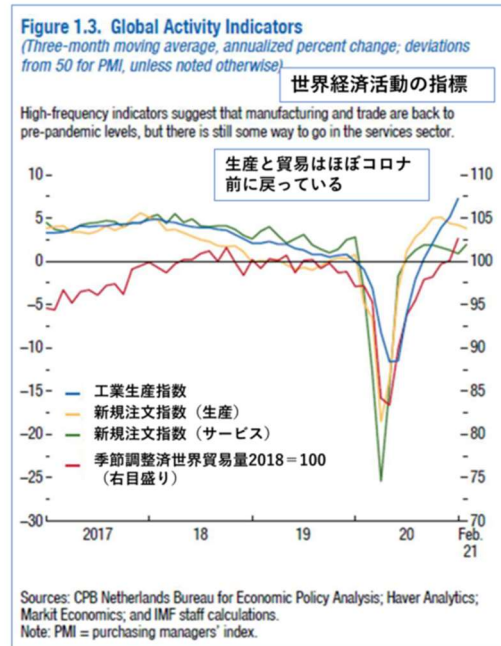
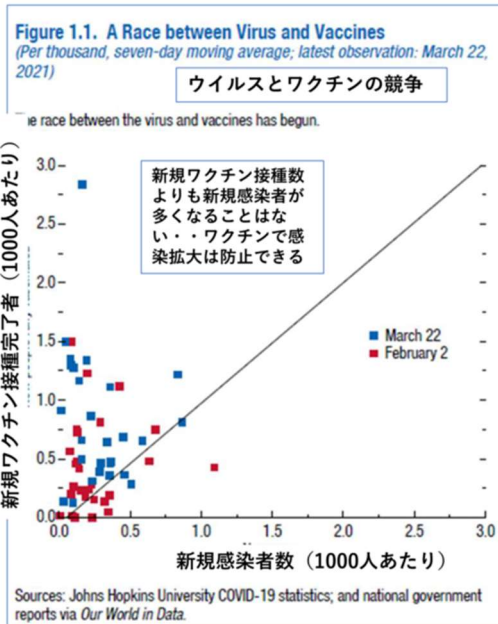
この予測値は、2020 年の実績値と 2021 年、2022 年の予測値を順次掛けて計算しました。先週は G7 のみしかご紹介できませんでしたが、今日はアジアを中心に国を増やしています。日本を含めかなりの国が、2022 年末でもマイナス、つまりコロナ前には戻れないという計算結果です。

目立つのは、中国、台湾、ベトナムで、この 3 か国は 2020 年の成長率をプラスで乗り切ったことが 2022 年終了時点での大きな成長に繋がっています。逆に大きく落ち込んだマカオが最も回復が遅れているのが印象的です。

IMF レポートには、本当にさまざまなデータがありました。いくつか続けてご紹介します。

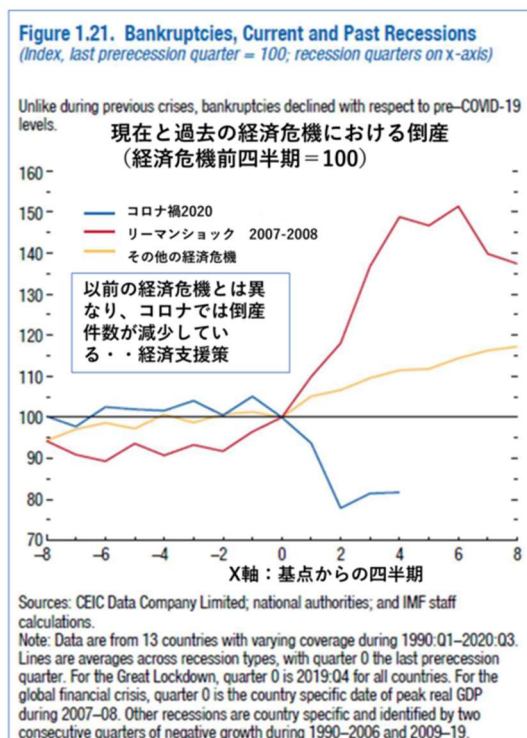
左下は、さまざまな国におけるワクチン接種率と新規感染者率の相関図です。図中の 45 度にひかれた線よりも点が上であれば、ワクチン接種が優位、下であれば感染が優位ですが、ほとんどの点が線の上方にありワクチン優位(ワクチンを接種すれば感染は少ない)でした。

右下のグラフは、世界の経済活動の推移です。経済活動(生産・貿易)は意外にも早く、世界全体としては、2020 年終盤にはコロナ前に復帰しているようです。



左上の図は、世界各国の輸入量に関する統計で、2020年5月に底をうち、9月には前年なみに戻っていることがわかります。この要因として先進国でのそれまでの抑圧された車の需要と新興国でのサプライチェーンの復活が挙げられています。

右上の図は雇用と就業率に関するものです。非常におおざっぱな分類ですが、2020年2Qで大きく落ち込んだ雇用と就業率が、緩やかにではありますが回復していることがわかります。これに限らず気になるのは2021年1月以降の動静ですが、ここでは触れられていません。



左上は日用品価格の推移です。食料品の価格が高騰しているようで、特に新興国、低所得国で上昇が激しいようです。原油価格が2020年中盤から上昇しているのが気になります。

右上は倒産件数の推移で、2008年のリーマンショックやその他の経済危機の場合と比較しています。前例に従わず、コロナ禍ではむしろ倒産件数が減少しています。考えられるとすれば手厚い公的支援がなされているということでしょうか？実際後ろの方で、そうしたデータが出てきます。

いかがでしたでしょうか？このIMFレポートには実にいろいろなデータが掲載されています。明日も続きます。